

2024/5/7 (火)

朝の礼拝

聖書 詩編 23編 1-3節 (旧約聖書839頁)

主は私の羊飼い。
私は乏しいことがない。
主は私を緑の野に伏させ
憩いの汀に伴われる。
主は私の魂を生き返らせ
御名にふさわしく、正しい道へと導かれる。

奇跡の瞬間

私は都心でも緑豊かな環境に生まれ育ちました。家にはケアキの大木があり新緑の頃は遠い駅からも見え、秋には落ち葉に埋もれて遊びました。生きもの好きな父はよく子どもたちを野山に連れて行ってくれました。まるでジブリの世界です。

学生時代は京都御所と三方の山の緑に囲まれ、北海道から沖縄、石垣島、西表島、カリフォルニアの巨木の森、オーストラリアのユーカリ、英国のコッツウォルズ丘陵、ウェールズの海岸、カナダの森、熱帯魚からイルカ、いつも緑と生きものと一緒でした。

最近の日本は一日の寒暖の差が激しく、春と秋は短く、砂漠のようです。実は聖書の世界は雨季と乾季だけの世界です。いまの詩編に「緑の野」「憩いの汀」とあったように、雨期の訪れは渇いた地を潤し、新しい命が誕生する奇跡の瞬間です。

この詩人はいつ終わるともわからない辛い、心が渇くような不毛の時を過ごしていたのでしょうか。しかし渇いた大地が潤い、緑が芽吹き、幼い生きものたちに励まされ、詩人の魂も生き返り、喜びと感謝に包まれています。

(しばらく黙祷しましょう)

慈しみ深い主よ、羊飼いであるあなたは、あなたの杖をもってわたしたちを緑の野に、憩いの汀へと導かれます。先週に引き続き今週もスタディツアーのため家を離れ、学校を離れ、学びの旅へと向かいます。どうか新しい出会いと交わりを祝福し、互いに愛し合う喜びと感謝に与らせてください。今日一日もすべてをあなたに委ね、よき学びのうちに過ごさせてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン